

女性の平和って、なに色？
 ～ポーポキちゃんといっしょに考えよう平和、暴力、ジェンダー～



講師 ロニー・アレキサンダー

アメリカエール大学卒業後、広島 YMCA に勤務。退職後、文学博士を取得し、神戸大学助手、同大助教授を経て、1993 年から神戸大学大学院教授。2006 年に「ポーポキ・ピース・プロジェクト」を立ち上げ、平和教育活動を展開。専門は、国際関係論、平和研究。



相棒のポーポキ▲

▲参加型講演会を実践して下さった講師

最初に、近くの席の人と互いに自己紹介をして打ち解けたあと、2～3 人程度の少人数のグループで、先生が提示した下記の言葉の中から、平和にはどれが必要かを 3 つ選びだすというワークを行った。

* 多様性	* 想像性・創造性	* 教育
* 自然	* 衣食住	* 信頼
* 自由	* 法律	* コミュニケーション
* 安全	* いのち	* 愛
* 富	* 社会正義	* 行動力
* 武器	* 芸術	* ? ? ?

最も多くのグループが「いのち」という言葉を選んだ一方で、「いのち」を選ばないグループもあった。このたった 1 つのワークを行っただけでも、平和がいかに広い概念で、1 人ひとりの定義がどれほど違うものであるかということを感じさせられた。また、例えば「安全」とは何か？と考えてみたときに、個人の安全と国家の安全は違うのか？どうすれば安全になれるのか？人間以外の生き物の安全はどうなのか？というように、ここに例示された選択肢自体も広い概念を持った言葉であるということを感じさせられた。

続いて、平和・ジェンダー・暴力について先生が、クイズを交えながらお話しされた。国連機関が人びとの生活向上のために使う

金額の約 80 倍の額が軍事費として使われている現代社会においても、戦争とジェンダー・バイオレンスは依然大きな問題である。例えば、ルワンダ紛争では征服・支配の武器として大々的にレイプが行われたが、これには意図的な HIV 感染や、自分の民族を増やすべく敵対する民族の女性を妊娠させることを目的としている場合もある。こういった紛争下でのジェンダー・バイオレンスの根底には、女性はさまざまな機会が限られているという、平時からのジェンダー不平等に原因があるとのことであった。

暴力には、直接的な暴力だけでなく、貧困や差別、環境破壊などのような構造的暴力、文化を口実に直接的な暴力や構造的暴力を正当化する文化的な暴力と、3 つの形態がある。あらゆる暴力をなくすためには、あらゆるレベルでの取り組みが必要であり、国連や国家、NGO や個人などがそれぞれの役割を果たすべきだと力説された。

15 年もの時を共に過ごした愛猫ポーポキの目を通して、平和を考える活動を行っているアレキサンダー先生。平和や暴力、ジェンダーといった容易ではないテーマを、ポーポキを交えた参加型講演会の形式をとることで、分かりやすくお話しして下さった。